

パチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決に取り組む事業・研究への支援

「三重県志摩地域におけるギャンブル問題からの回復者の社会参加促進」事業

依存からの回復者を社会資源として捉え、その社会参加をサポートするプロジェクト

アディクション（依存）を抱える人を単に弱者として捉えるのではなく、むしろ社会資源として捉え、地域の課題解決と結びつける活動は先進的で意義深いものと言える。依存からの回復を支援するコミュニティとして三重県で20年以上の経験を持つ団体が、依存から回復するための就労と社会参加を促すプロジェクトに取り組んでいる。



助成金を活用し弁当屋事業を志摩市内でも開始して、市役所等で販売

依存症からの回復を確実にするために地域の課題解決と結びつけた就労支援

1999年に三重県津市で設立されたNPO法人「三重ダルク」は、アルコール・薬物・ギャンブル・ゲーム・盗癖などのアディクション（依存）問題を抱える人たちのためのサポート・コミュニティを運営している。専門資格を持ったスタッフが多数在籍しており、理論的根拠に基づいて、アディクションを「手放す」から、新しい自分を「見つける」まで、一人一人に合ったサポートを提供している。また、当事者・家族への直接支援に加え、関係各機関への講師派遣、ネットワーク構築にも積極的に取り組んでいる。

これまでの助成を活用して三重県志摩市阿児町にギャンブルを含む依存症問題を抱える人たちのための新たな活動拠点を構えたことで、同地区での安定・継続した相談業務が可能になった。しかし、ギャンブル等のアディクション

問題を抱える人のなかには、もともと対人関係や社会活動が苦手な人、自閉傾向の強い人も多いため、ただギャンブル（アディクション）をやめるだけでは解決に至らないケースが多い。

そうした人たちの回復を確かなものとするためには、彼らに積極的な社会参加を促すための日中の活動の創出と支援内容の充実を図る必要があった。

そこですでに実績のある弁当屋事業（就労継続B型事業）を志摩市内でも開始し、そのための費用（主に設備等）として、2021年度のPOSCの助成をあてることにした。志摩地区は三重県内で最も高齢化が進む地域の一つで、在宅高齢者の食問題という課題が想定されている。その解決とアディクションからの回復者の就労を結びつけようというのが、その目的である。

尊厳ある回復のサポートを通じて地域全体が受益者となる取り組み

この事業には依存症からの回復者約7名が参加し、厨房機器（ガスレンジ・大型冷蔵庫・大型冷凍庫）などの購入とカフェスペースに薪ストーブの設置を行なった。これに伴い食品衛生管理者の資格および食品営業許可を取得したが、それによって当初予定されていた弁当販売だけでなく、拠点（LABO）での食事提供も可能になった。また、地域の高齢者に対しては配食サービスのほか、買い物支援も開始した。

受益者である地域高齢者の方々からは満足の声をいただき、それがクチコミとなって他の地域にも広がり、同様のサービスを望む声が寄せられているほか、志摩市社会福祉協議会、志摩市地域福祉課・商工課などの関係機

関からも高い評価を得ている。その一方で、地域住民に対して本事業の説明を行なった際、ある地区では偏見や誤解に基づくヘイトスピーチのようなものもあり、大変残念であり、傷つくものであった。

「かつてはアディクションを抱える人は社会から理解されず、肩身の狭い状況に置かれていましたが、現在は依存症という病気としての認知が進んでいます。しかし、依存者を単に弱者として捉え、支援対象にしてしまうのではなく、その一人一人を社会資源として捉え、地域の課題解決と結ぶネットワークを築くことで、尊厳ある回復のサポートを目指したいと考えています。そのことを通じて、地域全体が受益者となるように努めたい。この事業は、今後ますます発展の可能性があると分析しています」と、同法人の担当者は話している。



助成金で購入した厨房機器とカフェスペースに設置した薪ストーブ



助成団体: 特定非営利活動法人 三重ダルク

<https://miedarc.com/>



依存症に特化した助成が少ないなかで大変有意義な助成に感謝

アディクション（依存症）の人たちは、単に依存対象を手放すことだけでなく、その背景にある本質的な課題とも向き合いながら、地域社会と関わり、自分自身への尊敬を深めたいかなげなりません。これは当事者だけで解決できることではありません。今回、私たちは、POSCの助成金でそうした環境、機会を創出することができました。今後とも私たちの活動を見守っていただきますよう、心よりお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 三重ダルク
常務理事 市川 岳仁さん